

「概説」の参考事例

	書名／編者・発行者／刊年	形態	特徴	刊行の趣旨（前書きなどより抽出・要約）
通史	① 「北海道史 第一巻 概説」 北海道編・発行 1981年刊	A 5 判 上製本 367頁	「北海道史」計9巻（通説5巻・史料編3巻・概説1巻）の1つ。通説5巻の内容を要約。	できうる限り簡潔・平易なることを期したが、単なる通説にとどまらず、通説では触れ難かった全国及び世界史との関係にも触れようとしたため、通説5巻の内容を簡潔・平易に叙述し、その要領を得ようという方針は貫徹しえなかった。
	② 「新版 北海道の歴史 上・下」 長沼孝・関秀志ほか編 北海道新聞社発行 2011/2006年刊	A 5 判 並製本 536/440頁	上＝古代・中世・近世編 下＝近代・現代編 榎本守恵著「北海道の歴史」（1981北海道新聞社刊）の改訂版として企画。	近年出版されている北海道史の概説書と違った特色を出すよう努めた。高校生以上の読者向けに内容を精選し、表現を簡潔にすること、地域的には北海道に限定せず、周辺地域との関連を意識し、アイヌ民族問題には各章でしっかり触れることなどに努めた。（下巻あとがき）
トピック型	③ 「北海道の歴史がわかる本」 桑原真人・川上淳著 亜璃西社 2018年刊（増補版。初版2008）	B 6 判 並製本 391頁	あけぼの編（先史～近世）、躍動編（近現代）に分け、各28、計56のトピックで構成。各トピック6～8頁。本文を補足する語句の説明は、脚注として本文下に配置。	北海道と周辺地域の歴史して関心があるものの、何から学んだらよいか迷っている人、もう一度歴史を学びなおしたい人、…現在の北海道の置かれている状況を確認したい人など、おもに北海道の歴史に初めて触れるであろう読者を想定。
	④ 「北海道史事典」 北海道史研究協議会編 北海道出版企画センター発行 2016年刊	A 5 判 並製本 548頁 附録CD-ROM	前近世20、近世30、近現代64、計114項目で構成。各年代冒頭に「概観」の項を置く。各項目2～6頁。巻末に資料編として北海道史関係の史料・史料集情報を掲載。附録CD-ROMには『殖民広報』口絵写真を収録。	読者層を、北海道史に関心を寄せる一般市民、学生などに想定。研究上の新知見をも取り入れ北海道史を多面的に、また通観的に理解することに資する内容、そして研究上の入口としての意義も持ち得る内容の書を刊行。「事典」の形式をとることにしたのは、数ページ以下の量の一項目を読むことで道史の流れの重要なポイントを理解することができるようにするため。
	⑤ 「発見！三重の歴史」 三重県史編さんグループ著 毎日新聞社津支局編 新人物往来社発行2006年刊	B 6 判 上製本 271頁	原始から現代まで全120話を年代順に配置。各項目2頁。新聞連載記事特有の簡潔な記述。新聞連載はこの後も続き、「続発見！～」「新視点 三重県の歴史」「続新視点～」と4冊を刊行。	「毎日新聞」三重面に毎週1回のペースで掲載した120話を年代順に再構成し、地図や年表などを追加したもの。執筆は三重県史編さんグループの職員が担当し、「三重県史」編さんに伴う資料調査などで得た情報をもとに行った。

図 録 型 1	⑥	「目で見る旭川の歩み」 旭川市市史編集事務局編 旭川市発行 1990年刊	B5判 上製本 274頁 全カラー	文書、絵画、絵地図、写真を多く使用したビジュアル版通史。巻末に「旭川・1990・空からの点景」として現況を紹介。	開基100年記念式典での配布のため、平易で興味ある旭川の歴史書を作成。概要や解説などは、簡潔平易な文章をもって叙述。
	⑦	「新編埼玉県史 図録」 埼玉県編集・発行 1993年刊	A4判 並製本 323頁 全カラー	「新編埼玉県史」全38巻のほかに、普及版として作成。 資料写真のほか、作図・作表を多く掲載。オールカラー。	「新編埼玉県史」刊行中から、よりやさしくコンパクトな形で埼玉の歴史を通観できるような普及版の刊行への要望があった。文字説明をできるだけ少なくして、図・表、写真を多用し、親しみやすく目で見えてわかるように努めた。
	⑧	「図説 福井県史」 福井県編集・発行 1998年刊	A4判 並製本 271頁 全カラー	「福井県史」（全23巻25冊）の編さん終了後に作成。 前2誌に比べ、時代・事象の叙述が詳しく、掲載資料の解説も多い。	さきに編さんした「福井県史」の成果をふまえ、福井県の歴史を多角的に概観しようとした。
図 録 型 2	⑨	「たどる調べる尼崎の歴史 上・下」 尼崎市立地域研究史料館編 尼崎市発行 2016年刊	A4判 並製本 271頁 全カラー	第Ⅰ部：グラビア・バーチャル・ツアー「尼崎の歴史資料・文化財」 第Ⅱ部：尼崎市クロニクル「100年のあゆみ」 第Ⅲ部：ガイドンス「調べる 尼崎の歴史」 上・下巻全体の3分の2以上を第Ⅲ部に充て、調査研究の手法を時代別及び入門編・史料編・実践編と体系的に解説。	1996年に編さんを始めた新「尼崎市史」事業の集大成。「学ぶ市史から調べる市史へ」をコンセプトに、尼崎のおもな歴史資料・文化財をグラビアページで紹介する第Ⅰ部、市政100年の歴史を図説年表にまとめる第Ⅱ部、歴史の調べ方や成果の活用法をガイドンスする第Ⅲ部の三部構成。第Ⅰ部・第Ⅱ部によって尼崎地域の歴史・文化や市政のあゆみをたどり、さらに第Ⅲ部を活用することで、市民自身が歴史をひもとく主人公になってほしい。
	⑩	「東京の歴史 みる・よむ・あるく 全10巻」 (通史編3巻・地帯編7巻) 池享他編 吉川弘文館発行 2017年刊	B5判 上製本 各巻約150頁 全カラー	通史編3巻は「先史時代～戦国時代」「江戸時代」「明治時代～現代」の別。構成はトピック型に近く、1項目につき「みる」「よむ」「あるく」各2頁、計6頁からなる。 解説の前提として、史料を大きく掲載。	具体的な史料—古文書や、絵図、地図、写真などを素材とし、「みる」ことを入口に、これを深く「よむ」ことを基礎として過去の事実に迫り、さらに、明らかになった歴史の痕跡を「あるく」ために、その手がかりを用意した。